

都立 第五福竜丸展示館ニュース

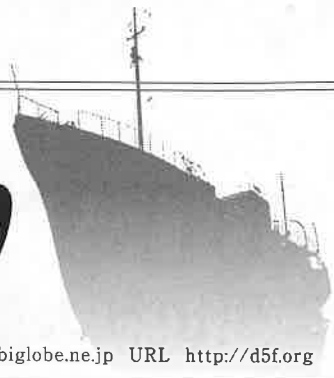
2009.11.01  
No.354

(11・12月合併号)

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

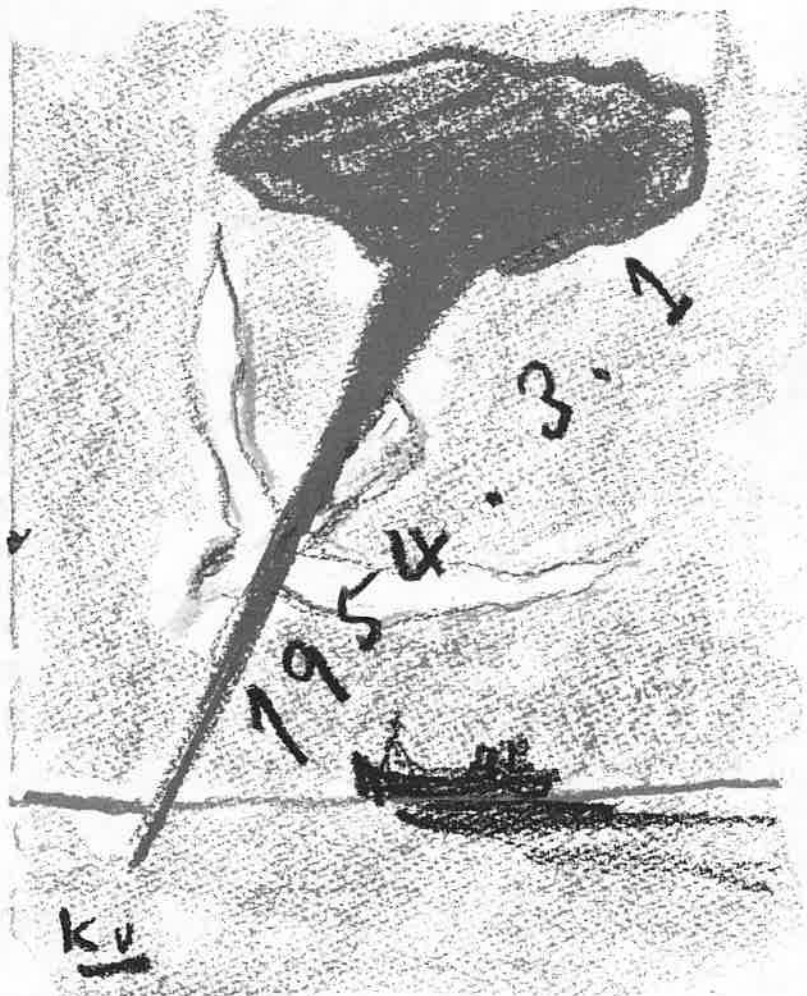
# 福竜丸だより



## 核なき地球へのメッセージ

BIKINI 55 ↓ P I K A D O N 65

黒田征太郎展開催 11月21日～3月22日



黒田征太郎さんが第五福竜丸に寄せたイラストの一枚。二〇〇八年末、五〇点の絵が送られてきた。黒田さんは二〇〇四年のビキニ水爆実験被災五〇周年のポスター制作以来、第五福竜丸展示館のための作品、デザインを提供している。

核兵器の廃絶をもとめてさまざまな注目すべきうごきが見られるなかで、市民の関心も高まりを見せています。

第五福竜丸展示館のスタッフやボランティア・ガイドにも、見学の市民から「核兵器を無くす気運がありますね」とか「本当になくせるといいですね」「見通しはどうですか」「福竜丸が保存されてきた意味が感じられます」と声を掛けられることがしばしばです。

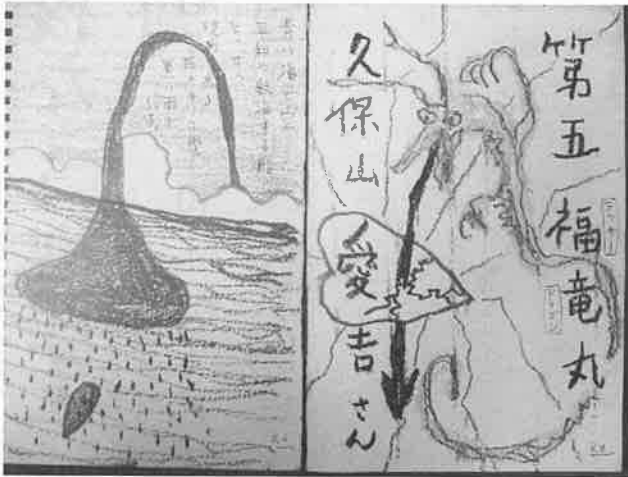
展示館では、一月二日より、核兵器のない世界にむけて、第五福竜丸からのメッセージをコンセプトに、著名なイラストレーター、デザイナーの黒田征太郎さんの作品展「BIKINI 55 ↓ P I K A D O N 65核なき地球へのメッセージ」を開きます。

この展覧会は、黒田さんが第五福竜丸に寄せて描かれたイラスト五〇点と広島・長崎市長のイニシアチブにより平和市長会議が提唱している二〇二〇年をめざして核兵器廃絶を実現する「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を『読む絵本』（8月刊行、Yes!キャンペーン）のイラスト、カラージュ作品二〇点などを展示するものです。

平和市長会議は、一九八二年の国連軍縮特別総会に際して広島市長の提案で平和連帯都市市長会議として発足、二〇〇一年に平和市長会議に改組され核兵器廃絶のための提言や行動をおこなっています。〇三年に核兵器廃絶のための緊急行動2020ビジョンを発表、〇八年「ヒロシマ・ナガサキ議定書」により核兵器廃絶への道筋を提唱しました（現在一三四カ国、三三四七都市が加盟）。

# BIKINI55 → PIKADON65

## 黒田征太郎展 “核なき地球へのメッセージ”



なぜヒトはヒトを殺すのか。  
なぜ人間は戦争をやめることが出来ないのだろう？  
こんな当たり前のことは色んな人がずーっと考えてきたこと。

でも人類の歴史は戦争の歴史。殺して。ころして。コロシテ。ばかり、そして地球の上にアクマの兵器があぐらをかいて次の出番をまっている……

<黒田征太郎さんのことばより>

ゲンバク・ノー いのち・イエス！

2004年以來、ピカドン・プロジェクトを展開して、原爆ノー、いのちイエスのイラストを多数描いてきた黒田征太郎さんのピカドン展は2005年7月～8月に第五福竜丸展示館で開かれました。

2008年から黒田さんは、ビキニ・第五福竜丸をテーマに50点のイラストを描き展示館に贈ってくれました。

今回の展覧会は、これらの作品と「核兵器のない世界」をねがい描いた「ヒロシマ・ナガサキ議定書を読む絵本」とくピカドン365と題する、365枚のピカドン作品や立体のコラージュ作品が展示されます。

また、映像展示作品として、野坂昭如さんの原作に黒田さんが絵を寄せた「忘れてはイケナイ物語り＝戦争童話集」のDVDが上映されます。

### ヒロシマ・ナガサキ議定書を読む絵本とは

原爆被爆の地・広島、長崎の市長は長年核兵器の廃絶を主張し行動してきました。そして、両市長のイニシアチブで世界3000都市が参加する平和市長会議は、核兵器のない世界を2020年までに実現する、その具体的な道筋を示めた「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を提唱しました。この議定書の概要は、①核兵器の廃絶を明確な目標とし、核保有国は、NPTにより非核保有国が禁止されているように核兵器の製造を行わない。②核兵器のための核分裂物質を安全な場所で厳重に管理する。③核兵器の運搬手段や発射台、指令管理システム、製造や実験の手段を廃棄する。核兵器に利用できるすべての核分裂物質の廃棄。④核兵器禁止条約を締結するため持続的な交渉をすすめる。そのための国際的な機関をつくり、2015年までに合意する。⑤2020年までに③を実行する。⑥核兵器のない世界を永久につづける国際的な機関を設立し各国が協力する。

\*

この議定書を市民の中にひろげようと、広島のNGO「Yes! キャンペーン」がイラストレーターの黒田征太郎さんに依頼して、『ヒロシマ・ナガサキ議定書を読む絵本』を製作・普及の取り組みをすすめています。

### 公益財団法人への移行について

財団法人第五福竜丸平和協会(1973年11月設立)は、公益法人制度改革三法に対応し、東京都による公益認定を経て、11月2日をもって公益財団法人に移行しました。これまで当法人の諸事業にご尽力、ご協力くださった方々に感謝申し上げますとともに、新たな発展を期して、11月28日午後3時より発足記念会を学士会館にて催します。

## 飛翔する「ラッキードラゴン」に 希望をこめて

安田和也

ラッキードラゴンという言葉は、米科学者ラルフ・ラップのルポルタージュ、『The Voyage of the Lucky Dragon』（邦訳『福竜丸』みすず書房1958年刊）に登場し、この本の挿絵を描いた画家ベン・シャーンにより後に「ラッキードラゴン・シリーズ」（1961年）として一一点の連作タブローの作品に昇華しました。その「ラッキードラゴン」がキーワードのようになっています。

### 林光の音楽

まず印象深かったのは、作曲家・林光さんが第五福竜丸に捧げてくださったピアノ五重奏曲「ラッキードラゴン・クインテット」の完結版初演演奏です。

三年前、第五福竜丸展示館は開館三〇周年を記念して、初めての本格的なコンサート企画のメインプログラムに、

新藤兼人監督の映画「第五福竜丸」の音楽を担われた林さんに、映画の曲をもとに展示館でのコンサート用の作品を書いていたきました。

林さんは、「この曲は出航と曳航の二楽章仕立てで明るい終わり方はない、それは第五福竜丸の運命がそのようなものだから」と述べられました。今年、ビキニ被災五五年、映画公開五〇周年を記念しての再度のコンサート企画にあたり、ぜひ三楽章をとお願いし書いていただきました。

「調和の海へ」と名づけられた三楽章は、幻想的旋律、波をおもわせるたゆたうようなリズム、しかしただ明らかな幸福感は満ちてきません。核兵器、地球が抱える難題が通奏低音のように、ときおり顔をのぞかせる、福竜丸と私たちの調和の海へはまだまだ遠いと……。しかし、「現実はらせんを描くように希望に近づ

く」と作曲家のメッセージとも受けとれました。

### 吹奏楽のラッキードラゴン

埼玉県春日部共栄高校の吹奏楽部は全国レベル。じつは、展示館での記念コンサートの一〇日前まで、同校の吹奏楽部のことは寡聞にも知らなかったのです。

五月五日の同部定期演奏会で初演された「ラッキードラゴン」第五福竜丸の記憶」は、福島弘和さんの書き下ろしの委嘱作品。福島さんは作品について述べています―「ここ

が家だ、ベン・シャーンの第五福竜丸」（アーサー・ピナード文、集英社）を手にしたことがきっかけでした。特に強く心に残ったのが「久保山さんのことをわすれないと人びとは言った。けれどわすれるのをじっと待っている人たちが走るほど怖くなった」。

作品は三部構成で、被ばくの航海をたどるように、おどろおどろしい水爆の爆発とキノコ雲が立ち現われる情景がイメージされます。後半は、船の魂である福竜が船体から

離れ、本当の意味で「ラッキードラゴン」となって天に飛んでいくイメージで書きました、と福島さんは定演のCD冊子に記しています。

緩やかにうねる波のリズムから激しく咆哮する金管群、変拍子のリズムを明快に打つリズムセクション、木管の美しい響きが渦巻きました。演奏する部員たちは、中間テストの終了後の七月半ばにこぞって展示館を訪れ、船体に見入り、その歴史と被ばくの事件について熱く学んでくれました。

一月二五日、全国吹奏楽コンクールにて見事金賞を授賞、指揮者で顧問の都賀城太郎さんは、「金賞の作品は取り上げる学校が多くなるので、第五福竜丸のことが広がるといいですね」と語っていました。

### ラッキードラゴンは 夢をかえさる

若い世代のファンが多い現代美術家のヤノベケンジさん。今年、「水都大阪2009」参加のアート作品として「ラッキードラゴン」

という名の船が出品され、実際に中ノ島から市内のウォータフロントをめぐる航海で、ドラゴンは口から火をふいて話題となりました。

ヤノベさんは、展示館で二〇〇四年に開かれた現代アート展において「森の映画館」（子どものための核シェルター）を出品。七〇年万博跡地の廃墟、岡本太郎・太陽の塔などを原風景として、チュルノブイリを訪れたり、アトムスーツやジャイアント・トラヤンをはじめ時代と切り結びながら、けっしてストレートな表現ではないペーソスとユーモアあふれる作品を生み出してきました。

〇七年刊の絵本『とらやんの大冒険』（赤々舎）で福竜丸とのつながりを感じさせて、感慨深かったのですが、今年、ラッキードラゴンという素敵な船を創造し、さらに絵本『ラッキードラゴンのおはなし』（サンリード刊）では、「ふくりゆうまる」という小舟が登場し、「ラッキードラゴン」は、夢を現実のものにする幻想的で不思議な活躍をくりひろげるのです。（第五福竜丸展示館学芸員）

# 福竜丸をとりまく言葉から 2009

ビキニ水爆実験被災五五年の今年を、展示館に寄せられたさまざまな言葉でふりかえってみました：

そのとき歴史が：

NHK「そのとき歴史が動いた 3000万の署名」第五福竜丸が伝えた核の恐怖」(本放送二月一八日)の放映後、「初めて知った」という方たちが多数来館しました。◇「テレビを見て初めて知りました。この船が沈められてしまっていたら、原水爆に對



岡本太郎作壁画「明日の神話」(東京・渋谷)を見て来館する人も多

信(二月二七日)、久保山さんらが入院していた東京国立第一病院(現国立国際医療センター)で「久保山さんのカルテと病理組織標本が発見」(時事通信配信 七月二〇日)と報じられ、記事を読んで来館する人もいました。

する私たち日本人の怒りはかすんでしまっていたかもしれせん」(宮城・20歳)◇広島・長崎ばかりではないことに気づかせてくれる大事な歴史的資料です。都がこんなことも大切にすることに感心しました。(東京・56歳)

久保山さんはなぜ死んだ

「久保山さんの死因は放射線被曝による多臓器不全。複合的、重層的な共働成因による、亜急性の劇症肝炎を生じたもので、原爆被爆者にもみられなかった新しい病気。私はこの病気に「久保山病」と名付け、後世に伝えるべきだと考えています」(間間元医師・協会主催「三・一ビキニ記念のつどい」での講演)

\* \*

「久保山愛吉さんの病理標本が広島大学原爆放射線医学研究所に保管」(共同通信配

「しのはいをみている絵があった。すごくうまくかけてるなあとおもった」(甲板のベン・シャーン)の絵をみて 東京・9歳)

うに、現実がすこしずつ希望に近づいていく」と映画の音楽を担当した林光さん(朝日新聞五月一七日)。

修学旅行とインフルエンザ

春の修学旅行シーズン(四月〜六月)に、新型インフルエンザ流行が懸念されたため、残念なことにキャンセルや延期などが相次ぎました。「全員マスク姿」「消毒液持参」の学校も多かったものの、例年以上に事後学習の作文や手紙などが届きました。

◇当時の福竜丸について、知るべきことをたくさん頭の中に入れて、未来のためにつくそうと思えました。(神奈川県・13歳)◇福竜丸は生きて帰ってこれてよかったと思えました。アメリカの人にも知ってもらいたいです。(山梨・小6)◇第五福竜丸は考えていたより大きく、戦争(核兵器)

から生まれた悲しみを感じました。展示を見て、核兵器が人から奪ったもの、奪った人生の多さを知りました。なぜまだ核実験をしたがるのか、なぜ地球から核兵器がなくなるのか、この二つが疑問です。(京都・中3)

ガイドボランティアの活躍

日々のガイドはボランティアスタッフが当たり、元乗組員・大石又七さんの講話も年間三〇回以上に及びます。ガイドを行うことが周知され、学校・旅行社からのリクエストが途切れることなく入っています。引率教師から「ふだんは騒いでいる子らが、こんなに真剣に聞いているなんて！」と驚かれることも少なくありません。

少人数グループで学習する「班行動」も増えており、慣れない交通機関に迷ってしまう、滞在時間がほとんどれないグループにも、展示を見ながら臨機応変に声をかけるなど、ボランティアスタッフならではの対応は好評です。

◇修学旅行のグループ行動で(5めんにつづく)

この船を見に来たけど、こんなにすぐくて、行く前はなんか軽くみてたので、話をきいて深く、とにかくびっくりしました。◇ポーツと見ていたら説明して下さって、丁寧なお話が聞けました。聞かずいたら「でかい船だ」くらいしか思わなかったでしょう。これから勉強したいと思っています。(千葉・16歳)

マーシャルの子どもたち

夏には島田興生さんの写真絵本『マーシャルの子どもたち』の復刻を記念してミニパネル展、ジャーナリストによ



アメリカからの留学生(京都・同志社大)に話す大石又七さん

るトーク、子どもワークショップを行いました。

七〇年代にマーシャルを取材したジャーナリストのひとり前田哲男さんは、「島田さんと私はロンゲラップに入るジャーナリストとしては最初の人間になりましたが、ロンゲラップへの道は踏みならされ拓かれていた。アタジ・パロスというロンゲラップの下院議員の問題意識や原水禁の池山重朗さんのような熱意ある組織者によって、岩垂弘さん、斉藤達夫さん、土井全二郎さんなどに伝える人がいたからです。」と述べています。

◇第五福竜丸の被ばくはよく知っていたけど、マーシャルの人びとのことは知らなかった。核兵器、放射能を生み出すものをなくすためこの展示館の存在は大きい。(熊本・16歳) ◇マーシャルの人が被爆しているなんて全然知らなかった。知らないでいることは恐ろしい。(神奈川・20歳)

爆弾でヒトは幸せにはなれない。(神奈川・61歳)



全国で福竜丸展

昨年続き、今年も全国から福竜丸展の希望があり、パネル・現物資料の貸出しを行いました。四ヶ月にわたって開かれた「ピースおさか」

での特別展示をはじめ、自治体主催・共催(兵庫県西宮市、大阪・富田林市・東京・杉並区、神奈川・藤沢市など)や平和博物館(ピースあいち、ナガサキ・ピースミュージアム、福島・アウシュヴィッツ平和博物館など)も増えています。また平和のための戦争展(さいたま、焼津、三島、名古屋など)、文化祭、生協やNPOの主催など多彩に展開されています。

◇真実を知ることが力をつけることです。米大統領の演説も、核兵器廃絶を願って行動してきた人びとの力によるものではないでしょうか。私たちがもっと行動を広げることが求められていると実感しました。◇風化しかねない事件を展覧会にしてくださいって感謝します。原水爆の被害については悲しくも日本が一番理解しています。このことを世界に訴えて核兵器廃絶を訴えていきたいと思っています。(福岡女性団体交流会、福岡市原爆被害者の会主催の展覧会アンケートより)

若い決意

◇中学生の時に一度来たが、そのときの何倍もの感動が今、私の中をめぐっている。ここに来たことを今後の世界に役立てたい。(東京・17歳) ◇第五福竜丸を保存して、水爆のことを後世に残そうとする人たちの団結力に感動しました。私は早く地球が武器や核兵器のない平和な星になってほしいという気持ちが増しました。(山形・中3) ◇今、世界が不安定になっています

が、その不安を力で解決するのではなく、違いをわかりあい、ともにのりこえる未来をつくらなければならない。私は創る一人でありたい。(高校生)

世界中で核兵器の製造をやめなくてはならないと感じた。(フィリピン・26歳)

天気の良い日には 夢の島の福竜丸へ行こう!?

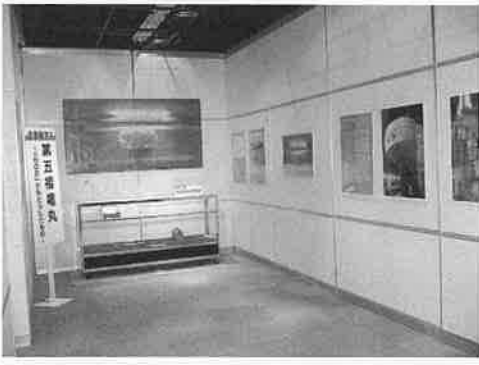
◇舞浜のデイズニールランドへ行く前に看板をみかけて寄りました。日本にこんな展示館があるなんてびっくりです。(東京・48歳) ◇ドライブの途中、偶然駐車した公園での出会いでした。歴史的遺産を目の当たりにして感激ひとしおです。◇小学生の頃から、夢の島に来ると必ずここに来ていた。子どもの頃に見た船、おとなになって見る今、時代の中で考えることがあつた。(東京・38歳) ◇小4のとき読み聞かせで知り、二五年たつて初めて来ました。

## 大阪・富田林市での第五福竜丸展

―福竜丸のマグロを食べた市民の模様を展示パネルに―

大阪の富田林市主催の「平和を考える戦争展」(八月七日から九日)の中で、企画展として「第五福竜丸」『死の灰』がもたらしたものの「の展示がおこなわれました。

この企画では、第五福竜丸平和協会制作のパネルセット36枚、「死の灰」、ガイガーカウンターなどの現物資料とともに、市が製作した当時の市の「原爆マグロ」騒動についてのパネル三点が展示されました。その内容を紹介します。



### 原爆マグロのゆくえ

第五福竜丸の漁獲してきたマグロやサメなどは、帰港の翌日、三月一五日の早朝水揚げされ、セリに掛けられて、東京、名古屋、大阪に行き、そこから一〇カ所以上の地域に送られました。

富田林市の市史の記録では、「大阪市場には二三本が入荷、そのうちの一本が富田林中央青魚卸売市場に卸され、市内三軒の魚屋と南河内郡磯長村(現太子町)の魚屋一軒が購入。二〇〇人以上が食べてしまいました。

(注)市史および当時の新聞報道や「アサヒグラフ」(原爆マグロ後日譚・54年4月7日号)などで、入荷魚の本数や食べた市民の数などは違いがある。市史では二〇〇人以上が食べてしまったとあるが、産経新聞には、五五人とある。

### 市の広報車が注意喚起

市の衛生課は広報車を出し、販売した魚屋の名前を告げながら食べた人は、保健所の健康診断を受けるよう呼びかけました。検診を受けた市民一五九人のうち五一人の白血球が下がっていたためビタミンB12の注射などの治療をおこなっています。

大阪市衛生局の発表では、残りのマグロを回収し検査したところ六四〇〇カウントの放射能を認めたといいいます。

### 魚屋さんの証言より

当時マグロを販売した魚屋「戸田市」の息子さん(当時高校3年)の話が紹介されています。

―三代目の父を手伝い、早朝に始まる卸売市場で仕入れた魚を運んでいました。

当時は鮮魚を仕入れて専門に売る店は珍しく、その日もセリに来ていた魚屋は戸田市を入れて三軒だけでした。市が購入したのは四〜五キロの切り身で、他の店とあわせて一匹の半分が売っていたと記憶しています。

開店してから三時間くらい、午前中のうちに保健所から「原爆マグロ」の知らせがきました。その時点で七〜八人前が売れていました。

昼前には検査が始まり、店にもガイガーカウンターを持った検査員がやってきて、ガイガーという大きな反応音が出ているのを覚えています。

当時、卸市場で仕入れてくる魚の切り身は、うろこがついたままの状態でしたので、父や私はマグロを触っただけでも、ガイガーカウンターで三〇〇〇〜三五〇〇カウントの数値を指しました。

戸田市が、原爆マグロを仕入れたとわかってからは、誰も店に寄り付かなくなりました。店の前の道も人通りが少なくなり、通る人は店からなるべく離れて通りまきました。そんな状態が一カ月も続きました。

### 原水爆禁止運動のはじまり

市民の不安を受けて、富田林市議会では、五月の臨時議会で原水爆禁止に関する決議案の緊急提案がなされました。

△富田林市史・第三巻五章より 原文のまま▽

―かつては三月市会中に衛生課長より原爆マグロの報告があり我々も不安に思います。かえりみするに放射能の雨が降っておる昨今、私も以前よりは少々の雨でも、かさをたずに出動いたしておりました。新聞紙上には飲料水にも放射能が含まれており、顔を洗った為に失明したという例もあります。我々日本人は、こういった恐怖に脅かされている事は日本人のみでなく全世界掲げてこれに反対すべきであります。かかる意味からいって原爆マグロの被害の第一線にあたる本市として、これを禁止するよう又被害に対する保証等を決議し強く政府に当たるべきだと思います。―

富田林市会は、五月二八日に原水爆禁止に関する決議案を満場一致で決議しています。

一九五五年、最初の原水爆禁止世界大会が広島で開かれましたが、五七年八月一七日には、原水爆禁止富田林大会が開かれています。(編集部)

## マーシャル諸島の 冷戦の負の遺産

豊崎博光



ロンゲラップ島被曝者のカパーン・アンジャインさんは、甲状腺手術を受けたあと甲状腺ホルモンをつづける（一九九一年五月、移住先のメジャット島にて）

オバマ大統領の登場によって、世界は冷戦の負の遺産である核兵器開発競争から核兵器廃絶へと歩み始めています

が、もう一つの負の遺産の核実験被害は放置され続けています。

米国によって六七回の原水爆実験が行われたマーシャル諸島では、核実験による被害を裁定し賠償金を支払う「核賠償裁定委員会」(NCT)が約二千人の住民と四島の住民への被害を認め賠償額を決定しています。四島とは核実験場とされたビキニとエニウエトク環礁、水爆ブラボー実験の「死の灰」をあげせられたロンゲラップとウトリック環礁です。このうち、ロンゲラップ環礁住民への賠償金を総額約一〇億ドルとした裁定理由が新たな問題を提起しています。

ロンゲラップ環礁住民は一九五四年三月一日に行われた水爆実験による被曝直後から一九九八年までブルックヘブン米国立研究所(BNL)の医師団によって検診を受けてきたのですが、検診や住民に対する対応が「人体実験」だったのではないかという問題です。

ひとつは、被曝三年後の一九五七年、ロンゲラップ島

に放射能が残り、ヤシの実などの食料も放射能に汚染されていることを知りながら住民たちを帰郷させたことです。案の定、帰郷一年後の住民たちの体内放射能量は急増しました。もう一つは、一九六九年に住民の間に甲状腺腫がみつけれられ恒常化すると、ガン化を防ぐという名目で頻繁に甲状腺除去手術を行ったことです。手術を受けた者は甲状腺機能低下症となって残りの生涯薬を飲み続けなくてはならなくなりました。

住民たちを放射能が残る島へ帰郷させたことや、体内の放射能量が危険なレベルに達したことを伝えずに過ごさせたことは、「価値ある環境放射能データを提供する」ことを目的としていたことが明らかにになりました。また、みつけられた甲状腺腫のうちガン化の恐れがあったものは約三割で除去手術はまったく意味のない手術であったことも明らかにになりました。しかし、これらのことは、ソ連の核の脅威に対してはやむをえない」という冷戦時の考えのもとでは正当化されたのでした。

いま、改めてBNL医師団の行動の犯罪性を明らかにした背景には、NCTによる被曝住民や四島住民への賠償金(合計約一四億ドル)の支払いが資金不足のために停止してしまっただけからです。また、二〇〇四年に全米ガン研究所がマーシャル諸島では二〇〇三年以降に核実験の影響によるガンが三〇〇件以上発症するという報告書を公表しましたが、この新しいガン発症者への賠償金の支払いも不可能であることを明らかにするためです。

マーシャル諸島政府は二〇〇〇年九月、米政府に対して、「核実験被害は初期の評価よりもはるかに甚大である」、「初期の核実験被害補償金は完全に不十分である」ということを具体的に立証し、総額約三二億ドルの追加補償を請求しました。しかし、当時のブッシュ政権はまったく反応を示しませんでした。

マーシャル諸島政府は、冷戦の負の遺産を清算して核のない世界をめざすオバマ政権に忘れられた冷戦の負の遺産である核実験被害への新

たな補償と温かな支援を求めています。(追記。マーシャル諸島のリトクワ・トメイン大統領は国連総会出席のために訪米し、九月二三日にオバマ大統領と面会しましたが核実験被害の追加補償の話をしたのかどうかは不明です。また、トメイン大統領は一〇月二一日、マーシャル諸島議会での不信任決議により解任されました。)(とよさき ひろみつ/フォトジャーナリスト)

### 『水爆の島 マーシャルの子どもたち』 普及すすむ

島田興生さんの写真絵本の頒布は、ブンブンプロジエクトをはじめ島田さんの知人・友人、第五福竜丸平和協会の賛助会員などの手で広げられ、約一〇〇〇部が普及されています。朝日新聞、読売新聞で紹介されたのははじめ、九月の北海道新聞での紹介では、読者から五〇部を超える注文がありました。



### 版画作品「久保山愛吉さんの死」 寄贈される

版画家の小林喜巳子さんの作品がこのほど展示館に寄贈されました。この作品は、1954年9月の久保山愛吉さんの死の直後に製作されたもので、病床の久保山さんの死を見守る家族、同僚たちの悲しみと怒りが描かれています。小林さんは、1929年東京生まれ。東京美術学校（現東京芸大）卒業、作品に「私たちの先生を返して」「灯ろう流し」「人間の鎖」「グスコブドリの伝記」など多数。

### 久保山さんの願いを心に

秋晴れの彼岸の中日、9月23日、第五福竜丸無線長の久保山愛吉さんが亡くなって55年、今年もたくさんの方がたが来館されました。核兵器のない世界への関心が市民のなかにもひろがり、平和のとりくみや原水爆に反対する運動にも活気が感じられました。

\*

平和を語る第五福竜丸の集い、年々盛んになり10時30分より15時まで昼食休憩をはさんで16組が出演。紙芝居、民話の語り、朗読、ジャワ・ガムランの演奏、群読、二胡の演奏などが披露されました。会場には漫画家の高橋伸樹さんの似顔絵コーナーで絵を書いてもらう人、第五福竜丸ボランティアの会は、「水爆の島マーシャルの子どもたち」の読み

語りで参加しました。集い世話人の中村博さんから、川崎昭一郎会長に寄附が手渡されました。



マグロ塚を作る会は、元乗組員の大石又七さんが主宰して、美味しいマグロを食べながら平和を語る会としてすっかり定着しています。今年は40名ほどがあつまり、マグロ塚と平和記念植樹のサクラの木の下で車座になって、近況報告や訴えなど全員が発言しにぎやかでした。

東京原水協の見学と学習の会は、展示館を見学の後、スポーツ文化館研修室にて学習会をおこないました。この日の講師協会の安田和也事務局長、第一部が「岡本太郎と第五福竜丸」と題して、渋谷駅に展示された「明日の神話」やビキニ水爆実験に触発された太郎作品の紹介、二部は「久保山さんの死因を考える」として、アメリカが第五福竜丸の被災をどのようにとらえゆがめて公表していたか、第五福竜丸乗組員の病状を追及してきた仲間元医師の講演をもとにした久保山さんの死因について報告しました。

#### ◆お知らせ◆

第五福竜丸平和協会の嘱託職員・米内節子さんが、このほど退職されました。ごくろうさまでした。

#### ◇展示館住所表示が変わりました

江東区夢の島2-1-1  
〒136-0081

#### 久保山忌句会船員賞

#### マーシャルの夕陽のしずく曼珠沙華

田中千恵子

久保山忌句会は、午前中参加者による久保山愛吉記念碑へのリンドウの献花、協会の川崎昭一郎会長から歓迎の挨拶をうけました。午後の句会では、田中千恵子さん（新俳句人連盟副会長）の作品が「船員賞」に選ばれ、協会の山村茂雄理事より賞状と記念品が渡されました。